

街並み生い立ち 街歩き

港町横浜と佐世保

都市デザイナー

西脇 敏夫

〈佐世保編〉

「街並み生い立ち 街歩き」 執筆テーマ

- ① 街並みの生い立ちを歩く
(横浜編)
- ② 大通り公園
- ③ 都心プロムナード
- ④ くすのき広場と横浜市庁舎
- ⑤ 横浜公園と日本大通り
- ⑥ 日本大通りの建物たち
- ⑦ 開港広場
- ⑧ 山下公園通り
- ⑨ 横浜人形の家
- ⑩ 元町、中華街、馬車道、伊勢佐木町
- ⑪ 港の見える丘公園周辺
- ⑫ 外国人墓地、元町公園周辺
- ⑬ 「山手公園」「山手イタリア山庭園」周辺
- ⑭ 歴史を生かしたまちづくり
(佐世保編)
- ⑮ 美しい西海の自然に抱かれた街
- ⑯ ささげ大通りに沿って
- ⑰ 佐世保川に沿って
- ⑱ 三ヶ町・四ヶ町・五番街

18. 三ヶ町・四ヶ町・五番街

歩行者軸は開港以来の幹線道路

3本の都市軸は「市役所」で集束しています(写真1)。開港によって最初につくられた旧「本通り」は、北は平戸方面に南は早岐方面に延びる重要な道路で、この道路を軸に格子状の道路網が形成されました。しかし1945(昭和20)年に、平行する旧「弥生座通り」が拡幅されて「国道35号」になってからは、旧「本通り」は「市役所」で行き止まりの道となり幹線道路の座を譲りました。

「佐世保鎮守府」が置かれた頃の集落は、現在の「元町」やこの旧「本通り」沿いにありましたが、1910(明治43)年に青色の「市庁舎」が現在の位置に造られた頃には、「市役所」周辺一帯が中心街でした。その後、人口の増加に伴い街の中心はこの通り沿いに南に移っていきました。

現在の旧「本通り」は「国際通り」を境に様相が一変して、南側は全蓋のアーケードがかかる商店街になります。「戸尾交差点」で曲げられた「国道35号」の誕生によってこの通り沿いは歩行者の街となり、現在の中心市街地の「歩行者の軸線」になりました。

「アーケード街」は「四ヶ町商店街」と「三ヶ町商店街」で構成され、全体を「サルクシティ403」と呼びます。「サルク」は九州の方言で「ぶらぶらする」、「403」は「四ヶ町、玉屋、三ヶ町」を表すそうです。

この「商業の軸線」でもある延長約1kmの「アーケード街」は、一見どこにでもあるような商店街ですが年間を通して人通りが絶えることがなく、全国で中心商店街の空洞化が問題になっている昨今、25万都市で



写真1 市役所から見る三本の軸線。左から「国道」、旧「本通り」、「佐世保川」。旧「本通り」は市役所で行き止まり

は日本一元気な商店街とも云われています。これは、商店街による各種イベントなどの活発な活動とともに、細長い谷沿いの中央に伸びるこの街の地理的要件や背後の斜面住宅地などへの拡がり、3本の都市軸周辺に立地する複数の総合病院、公園、図書館、官公庁などの公共施設、平行する「車の軸線」沿いの多くのバスストップや中程にある「松浦鉄道」の駅。こうした都市構造が大きく貢献していると考えられます。

しかし10年程前には、郊外部と港に面した新しい街それぞれに、大規模商業施設の進出計画がもちあがり、この街の盛衰に関わる大きな出来事として紛糾したこともありました。

佐世保三ヶ町商店街

「国際通り」の「ささげ大通り」と「佐世保川」のほぼ中間に、「SUN PLAZA」と書かれた「佐世保三ヶ町商店街(サンプラザ)」のゲートがあります。「松浦町」「常盤町」「栄町」の三つの町を通る商店街なのでこの名前が付けられています。

佐世保最大の老舗デパート「佐世保玉屋」の前身「田中丸商店」が、1894(明治27)年に「松浦町」に出店しましたが、1920(大正9)年には「デパート田中丸呉服店」として南の「栄町」に開店するなど、市街地の発展とともに街の拡がりが徐々に

南に移ってきたことが分かります。1945(昭和20)年の空襲で、中心部のほとんどが焼け野原になってしまいましたが、1950(昭和25)年の「朝鮮戦争」の勃発で港も街も国連軍の艦船と将兵で溢れ、この付近を中心に土産物屋、レストラン、キャバレーなどで賑わい、裏通りは外人バー街となりました。現在も外人バーといわれる店が周辺に点在します。

近年になって市街地活性化の一環として、4ブロックからなる「栄・常盤地区再開発事業」が行われ、2014(平成26)年に商店や高層マンションをはじめ「中央公民館」や「子供発達センター」などの公共施設で構成される施設全体がオープンしました(写真2)。



写真2 再開発事業で造られた高層マンションの裏手に、バーなどのある街が広がる

「サンブラザアーケード」は1977(昭和52)年に造られました。「四ヶ町商店街アーケード」は1966(昭和41)年に造られており、二つの間にある「島瀬(しまのせ)公園」脇にも1985(昭和60)年にアーケードが造られて全体が一体となり、直線でほぼ1kmの日本一長いアーケード街



写真3 直線で1kmのアーケード街

といわれるようになりました(写真3)。

街の要「島瀬公園」

「島瀬公園」は戦後、「三ヶ町商店街」と「四ヶ町商店街」のほぼ中間の強制疎開の跡地につくられています。全体は細長い三角形形状で、アーケードをはさんで両側に分かれています。佐世保川側は遊具が配置されていますが、国道側は大きな屋根を備えた舞台がある広場になっています。商店街の中心にある広場として買い物客などの休憩場所だけでなく、各種イベントをはじめ様々な催しに活用されています(写真4)。国道にはバス停もあって、「車の軸線」と「歩行者の軸線」を空間的、機能的、有機的に結びつける重要な役割を果たしています。



写真4 イベントなどに活用されている「島瀬公園」、左が舞台、正面右にアーケード

特に1996(平成8)年から始まった、毎年11月下旬から約一ヶ月間開催される「きらきらフェスティバル」の際は、隣接する「島瀬美術センター」の巨大な壁面をキャンパスにしたイルミネーションが飾られ、この広場を中心に様々な飾りつけや多くの催し物が開催されて賑わいます。中でも「きらきらチャリティ大パーティ」の時は、およそ5千人の市民が会費を出し合い、長さ1km巾11mの通りがパーティ会場と化し、一斉に大乾杯や大じゃんけん大会などが行われ街全体が盛り上がります

(写真5)。



写真5 パーティ会場になったアーケード街

佐世保四ヶ町商店街

「島瀬公園」からは「四ヶ町商店街」になります。「島瀬町」「本島町」「下京町」「上京町」の四つの町で構成され、1953(昭和28)年に命名されました。

名所建築「親和銀行本店」

「島瀬公園」を過るとすぐ右手にある銀行で、白井晟一が設計したことで知られています。アーケードに隠れて全貌は分かり難いのですが、事務所建築的な通常の銀行建築とは異なる独特なファサードをのぞかせています(写真6)。背後にある「懷霄館(かいしょうかん)」と呼ばれるコンピューター棟も、正面は石積み

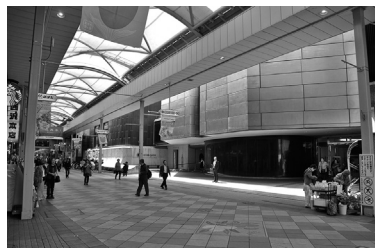


写真6 アーケードの下から覗く「親和銀行」の建物



写真7 「親和銀行懷霄館」

の塔を思わせる独特な外観で広く知られ、「島瀬公園」側などから見る事が出来ます(写真7)。

街の真ん中の隠れ鉄道

銀行の隣の「イオン佐世保店」脇を、「松浦鉄道」の鉄橋がアーケード街を横切っています。しかし、ガラス越しに走る電車を見つけないと気が付きません。その存在が街の環境に合わせて上手く消されています(写真8)。



写真8 アーケード街を横切る鉄橋、アーチの下のガラス越しに列車が見える

その先の路地の入口に「佐世保中央駅」と書かれた小さなサインがあり、細い路地の奥を曲がると突き当りに駅があります(写真9)。単式一面一線ホームの可愛い高架駅で、「佐世保共済病院」と「イオン佐世保店」に連絡通路で直接つながる駅です。国道の反対側にある「中佐世保駅」とは200mしか離れておらず日本一短い区間の鉄道駅です。

「松浦鉄道」は二本レールでは日本の最西端を走る鉄道です。



写真9 路地裏の駅、右手奥に駅舎入口が見える

アーケード街を抜けて港へ

戸尾交差点に近い旧「親和銀行京町支店」の空き店舗を利用して、街の情報センター「くっけん広場」があります。

その角を右に曲がると「夜店公園地区」に出ます(写真10)。大正時代頃から形成されてきた繁華街で、アーケード街の裏に広がる夜に賑わう街です。



写真10 「夜店公園通り」

一方、戸尾交差点方面へ直進してアーケード街を抜け、斜め右方向の路地を行くと、2階を黒い漆喰で固めた町屋建築があります。大正時代に建てられた「橘高(きったか)京町営業所」の建物です(写真11)。この辺一帯は戦災に遭わなかったことにより残されていて、戦前の写真には同様の建築様式の建物が幾つか見られ、かつての街並みを伝える貴重な歴史的資産です。



写真11 「橘高京町営業所」

この路地を抜けて右に「夜店公園地区」、左に「アルカスSASEBO」を見ながら国道384号を港方面に行くと、「松浦鉄道」と「西九州自動車道」

の二つの高架橋があります。「みなと大通り」に建設された「西九州自動車道」は、その景観が問題となり大規模な市民運動が起こりました。結局は「佐世保駅」のプラットホームから港の眺望を妨げない高さや、暫定2車線の形態を工夫するなどの配慮がなされて建設されました(写真12)。

「みなと大通り」との交差点を横断すると、左手に「新港町(しんみなとまち)」と名付けられた新しい街が広がります。この街の町名や道などは、市民公募により命名されています。



写真12 高速道路の高架橋は暫定2車線で造られ、将来両側に1車線ずつ増設して4車線になる予定

名実ともに港町に

交差点の斜め左の「新みなとプロムナード」を行くと、「新みなと広場」のアメリカ楓の林越しに港の風景が開けます。右手には近海航路の「新みなとターミナル」と五島航路の「鯨瀬ターミナル」があります。2003(平成15)年に竣工した「新みなとターミナル」のデザインは公開コンペによって採用されました(設計は北川原温)(写真13)。



写真13 アメリカ楓が植えられた「新みなと広場」と「新みなとターミナル」(佐世保市・杉本和孝氏撮影)

港の周りのエプロン敷きは赤レンガが敷き詰められ、自由に散策が出来る遊歩道「ポートサイドテラス」になっています。このテラスに面する建物は、背後の「烏帽子岳」や「弓張岳」への眺望を極力遮らないよう高さが低く制限され、港に開かれた施設構成などが求められます(写真14)。



写真14 「ポートサイドテラス」に面する施設。背後に「弓張岳」が見える

ここに2013(平成25)年、大型複合商業施設「させば五番街」がオープンしました(写真15)。そしてさらに昨年、その先にある「三浦岸壁」に「佐世保港国際ターミナルビル(葉港テラス)」が完成しました。25年前の港湾倉庫をリノベーションして造られた本格的な施設です(写真16)。近年高まりつつあるクルーズブームもあり、2015(平成27)年の佐世保港



写真15 「させば五番街」から港を見る。正面にクルーズ船が停泊する
(佐世保市・杉本和孝氏撮影)



写真16 古い倉庫をリノベーションした佐世保港国際ターミナル「葉港テラス」



写真18 「ポートサイドテラス」の夜景
(佐世保市・杉本和孝氏撮影)

への外国船社運航と日本船社運航のクルーズ船寄港回数は、ともに全国8位(平成28年1月国土交通省速報値)に躍り出ました。

この街を訪れる市民は、居並ぶ軍艦とともに大型客船が停泊する佐世保港の新しい光景を間近に、ウォータフロントの生活を楽しむことが出来ます(写真17)。



写真17 「ポートサイドパーク」からのクルーズ客船
(佐世保市・杉本和孝氏撮影)

この街の誕生によって佐世保は、市民生活にとって名実ともに「港町」になりました。

夕焼けに染まる港街を背にしながら(写真18)、小さな芝生の丘と石畳の「ポートサイドパーク」を通して「佐世保駅みなと口」へと戻ります。

ここで今回の「街並み生い立ち 街歩き」のシリーズを終わります。

〈参考文献〉

- 1.「地図で見る佐世保」(編著:平岡昭利 発行:芸文堂)
- 2.「佐世保の歴史」(編纂:佐世保市史編纂委員会 発行:佐世保市)
- 3.「佐世保辞典」(編纂:佐世保市史編纂委員会 発行:佐世保市)
- 4.「佐世保年表」(編纂:佐世保市史編纂委員会 発行:佐世保市)
- 5.「近代佐世保130年の軌跡」(発行:佐世保市教育委員会)
- 6.「させば歴史散歩」(編集・発行:芸文堂)

にしわき・としお

早稲田大学・同大学院建築学科で学んだ後、大高建築設計事務所、武建築計画研究所で多摩NT計画、港北NT計画、再開発計画、観光開発計画、建築設計などに携わり、36歳の時、横浜市役所に招聘され都市デザイン室長、都市企画部長、都心部整備部長などを歴任し、22年半に亘り横浜市の都市デザインを展開した。59歳の時、佐世保市役所に招聘され、7年間佐世保市の都市デザインに取り組む。

二つの自治体、コンサルタント、事業者など、異なる立場から都市デザインを実践し、公的委員や大学非常勤講師を歴任。講演、論文、著書、活動成果に対する受賞などがある。

(訂正) 先月号の記述に誤りがありました。P.59の2段目小見出しおよび本文に出てくる「佐世保水公社」は「佐世保水交社」です。訂正いたします。

お楽しみいただいた「街並み生い立ち 街歩き」は、今回で完結です。西脇様、1年半にわたるご執筆、どうもありがとうございます。編集部